

「ならなぎ」活動報告

報告者： 玉尾 洋一

日時	2025 年 11 月 9 日 (日) 13 時～16 時	天候	雨	歴史文化チーム定期活動 於：音声館	
案内団体または催事名	仏像鑑賞入門第 4 回目			人数	大人： 13 名

(敬称略)

出席者：中谷、吉川、木邨、玉尾洋、中澤、山口、池田、奥山、北川、玉尾ひ、寺尾、嶋田、豊田
実施内容：13 時～16 時 座学

●深掘り発表 13 時～13 時 45 分 北川さん

- 日本の怨霊について
 1. 井上内親王
 2. 早良親王
 3. 早良親王と大伴家持
 4. 藤原広嗣
 5. 御霊神社の神々

以上 5 点について今後 5 回に分け発表予定。

本日は井上内親王の誕生から結婚までを発表。

<https://naranagi.jp/kaihatsu/onryoul.pdf> (資料)

●仏像鑑賞入門第 4 回目 13 時 45 分～16 時 中澤講師

- 当麻寺四天王像 <https://naranagi.jp/butsuzou/index19.html>
法隆寺金堂四天王像 <https://naranagi.jp/butsuzou/index9.html> と比べると大きく違うのが仏像の素材が違う。法隆寺のは木造に対し当麻寺のは脱活乾漆像（1 体は燃えたため木造）である。
表現の「進化」を見比べると、両者とも白鳳時代の作だが、法隆寺のは直立不動に対し、当麻寺のは今にも動き出しそうな気配が感じられる。このことから同じ時代でも当麻寺の方があとで制作されたと考えられる。

○第三章 やっとできた理想の形 ～天平時代～

- 天平時代とは元明天皇が 710 年に都を平城京に移してから、桓武天皇が平安京に遷都する 794 年までの 84 年間のこと。これは歴史の時代区分では奈良時代だが、文化や美術史の区分では天平時代と呼ぶ。この時代仏教と仏教美術が大いに発展した。キーマンは聖武天皇だ。天平仏のキーワードは「写実の完成」。写実に拍車をかけたのは、新しい素材と技法が唐から入って来たからで、塑像・乾漆像と言う。素材が柔らかくなることでより繊細な表現が可能となった。
- 仏教を政策に取り組む
741 年聖武天皇は全国に「国分寺」と「国分尼寺」「七重の塔」を建立せよとの詔をくだす。理由として「自分が天皇に即位したが、力が及ばず、とても恥ており、心が安らかにならない。そこで仏法の力を借りたいと思う。」と述べられ「金光明最勝王経」と「妙法蓮華経」の写経を塔に収めることを命じた。その総本山が東大寺だ。
- 各国分寺には釈迦如来像を安置し、その統括が盧舎那仏である。なぜ釈迦如来や阿弥陀如来ではなく盧舎那仏なのか？「続日本書記」には知識寺で見て、欲しくなったとあるが、一方で中国の即天武后が同じ発想で巨大な盧舎那仏を作っている。遣唐使から帰って来た玄昉がそれを見聞きして、聖武天皇に進言したのかも知れない。絶対に欲しいと思った聖武天皇は官僚から嫌われていた私度僧の長「行基」に頭を下げ、勸進役を頼んだ。
- 当時仏教伝来は 552 年とされており、200 周年記念として 752 年 4 月 8 日（釈迦誕生日）に間に合わせるため、急いだ。金メッキが頭部しか塗れてなく、未完成だったと言われている。しかも 1 日開眼供養がずれた。であるが、とにかく念願の大仏が建立され、世の中、天然痘や飢饉で憂えている中、のべ 260

万人を動員した。天皇の権力が窺い知れる。

<https://naranagi.jp/kaihatsu/kaigen.pdf> 大仏開眼供養

- 戒壇院四天王像 <https://naranagi.jp/kaihatsu/shitennou.pdf>

天平時代の代表的な仏像。製法は塑像で、160cm から 165cm。仏像で「初めてオーダーメイドの甲冑を身につけた」と言われている。四体とも上腕の部分に獅噛（しがみ）と呼ばれる獅子の頭部が表され脛宛てを付け、靴まで履いてフル装備だ。筋肉の盛り上がりや腰のくびれまでリアルに表されている。

戒壇院広目天立像獅噛 <https://naranagi.jp/butsuzou/koumokutenS.png>

前列に持国天、増長天がおり、ともに目を怒らせて憤怒の形相をしている。一方後列の広目天と多聞天は二天とも口を堅く閉じ、瞳を上に乗せて眉をひそめ、遠くを眺めているように見える。これは警備範囲の違いで、前列は目の前にやってきた者に睨みを利かせてガードしているのに対し後列は遠くにいる者を見張っている。

- 唐招提寺鑑真和上坐像 <https://naranagi.jp/butsuzou/index22.html>

鑑真和上は聖武天皇が勧請して、戒を授けるため、来日した。来日までの苦難がもとで盲目になったとあるが、実は少しは見えていたのではないかと憶測されている。

<https://naranagi.jp/kaihatsu/ganjin.pdf>

仏像ではなく日本で初めての肖像彫刻。まるで生きてるかのように見える。彩色のあとが確認でき、唇は朱、目は墨で描かれ、眉や耳毛、髭の跡といった非常に細かいところまで表現されている。粉末の木材と漆を混ぜてバテ状にした木屎漆は厚いところでは、5mm ほど塗り込まれ、像の内部は簡単な木組みが残るだけで空洞になっている。木組みの頭部から腹部にかけて、白く荒い砂状のものが塗り込んである。

●次回開発勉強会「仏像鑑賞入門」5 回目。P. 126～

日時：12 月 7 日（日）13 時～

場所：音声館

以上

（気になった点、引継ぎ事項）